

キャラクター名
エレノア

プレイヤー名

シンドローム	バロール		ワークス	レネゲイドビーイングC	カヴァー	クララ・カルンシュタインの人形
	バロール			年齢	不明	性別
オプション	覚醒	渴望	衝動	解放	初期侵食率	43%
出自	最後の希望		経験	親友	邂逅	幼子

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	0	0	1			1	行動値	8
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	8
精神	4	1	0			5	戦闘移動	13
社会	2	0	0			2	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉	1	
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:IGN(アカデミア)	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				100↓[ガード:5D+17、HPダメ:-(1D+21)]
						100↑[ガード:6D+20、HPダメ:-(1D+24)]
						160↑[ガード:7D+23、HPダメ:-(1D+27)]

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
Bランク:ディフェンダー	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス:複製体P		N		
クララ・カルンシュタインP	慈愛	N 不安		
西野楓	P 好奇心	N 脅威		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
Dロイス複製体:炎陣	1	4	オート	至近	自身	自動	-	
効果: カバーリングを行う。行動済みにならず行動済みでも使用できる。								
孤独の魔眼	4	4	オート	視界	効果参照	自動	-	
効果: [選択:範囲][選択:範囲(対象)]を[対象:単体]へ変更。自身一人に変更する。								
グラビティガード	5	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果: このガードの間、ガード値+[Lv]D								
虚無の城壁	5	2	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果: そのラウンドのガード値+[Lv*3]								
斥力障壁	7	2	オート	視界	単体	自動	-	
効果: 対象のHPダメージを-[1D+LV*3]								
セットバック	2	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果: 自身の受けている暴走以外のバッドステータスを[Lv]個回復する。								
オリジン:レジェンド	1	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果: そのシーンの間【精神】を使用した判定の達成値を+[Lv*2]								
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動	RB	
効果: 衝動判定のダイスを+[Lv]個、基本侵蝕率を+5								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

エレノアはクララ・カルンシュタインの人形である。
 彼女はもともとクララのレネゲイドウィルスに依存し、人形に宿ったRBであったが、学園に存在する膨大なオーヴァードのレネゲイドウィルスに触発されその真価が現れた。

彼女はクララの望んだように、彼女の心を守るように、彼女の側に立つように作られた存在であった。
 しかし、レネゲイドの進化は停滞を許さず、エレノアに力を与えた。
 彼女の肢体はすらりと伸びて、人形のような肌が滑らかになり、碧色の輝く瞳には強い意志が宿った。
 それは人形のガラスの瞳には到底手に入られなかったもので人間の温かさとも呼ばれるものであった。

エレノアはクララの親友で、家族で、彼女の人形。

「クララ、クララ・カルンシュタイン。小さくて可愛らしい、私の主人(オーナー)。」

エレノアの腕が人のそれとなり、瞳に力を持って、これまでよりも明らかにレネゲイドをコントロールできるようになったということは、これまでよりも、クララの側に立てるようになったということであり、これまでよりも、彼女を支えることができるようになったということ。ほんの少しだけクララより高い背に戸惑いながらもエレノアはクララの隣に立つ存在となった。

責任感の強いクララの精神的な支えと求められたためか落ち着いた、まるで年上の姉のような振る舞いをする。振る舞いは正しく、美しく、彼女の逸話のそのように愛らしく映る。